

令和7年11月6日

滋賀県内経済情勢報告

(令和7年10月判断)

1. 総論

【総括判断】 「緩やかに持ち直している」

項 目	前回 (7年7月判断)	今回 (7年10月判断)	前回 比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

(注) 7年10月判断は、前回7年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【主な項目の判断】

項 目	前回 (7年7月判断)	今回 (7年10月判断)	前回 比較
個人消費	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	7年度は前年度を上回る見込みとなっている	7年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	7年度は減益見込みとなっている	7年度は減益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、消費者の節約志向がみられるものの、物価上昇の影響により、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売は、物価高により客単価が上昇しており、前年を上回っている。

ドラッグストア販売は、食料品や夏物商品の売れ行きが好調となっており、前年を上回っている。

ホームセンター販売は、物価高による客足の減少がみられており、前年を下回っている。

家電大型専門店販売は、パソコンなどが好調であり、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通・小型車、軽自動車ともに前年を下回っている。

観光動向は、国内旅行を中心に堅調に推移してきたものの、足下では弱い動きとなっている。

（主なヒアリング結果）

- 客数・客単価は増加しているものの、節約志向の強まりにより、買い上げ点数は前年を下回っている。
(百貨店・スーパー)
- 値上げ効果により売上は前年を上回って推移しているが、郊外ではドラッグストアなどとの競合が激しく、厳しい環境が続いている。
(コンビニエンスストア)
- 猛暑の影響により飲料の売上が好調。物価高による節約志向によりケースでの購入が増えている。
(ドラッグストア)
- 物価高により客単価は上昇しているものの、スーパー・ドラッグストアとの価格競争により来店客数が減少しており、売上は前年を下回っている。
(ホームセンター)
- Windows10 のサポート終了に伴いパソコンの更新需要が高まっていることから、売上は前年を上回っている。
(家電量販店)
- 一部の人気車種で納期が長期化している状況にあり、全体に影響を及ぼしている。
(自動車販売店)
- レジャー客が好調であったことから団体旅行は増加したものの、足下ではインバウンド客が減少している。
(宿泊)
- 原材料価格の上昇の都度、メニュー改定と併せて価格転嫁を行っていることから、売上は増加基調となっている。
(飲食サービス)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

鉱工業指数（生産）は、半導体製造装置の需要が旺盛である「生産用機械」や、医薬品を含む「化学」が引き続き高水準で推移していることから、生産活動は、緩やかに持ち直している。

（主なヒアリング結果）

- 半導体製造関連について、中国における AI 事業拡大に加えて、データセンター向けの需要が旺盛となっており受注数量が増加している。
(生産用機械)
- 新機能・新技術が搭載されたスマートフォン機種の増加により、関連部品の生産量が増加している。
(情報通信機械)
- 部品の供給遅延により、一時、自動車関連の生産量が減少したものの、足下では挽回生産により高負荷で稼働させている。
(輸送機械)
- 口腔内で殺菌効果のある医薬品の需要が増加していることから、好調を維持している。
(化学)
- EV 市場の低迷のほか米国による関税措置の影響により、自動車関連での設備投資が慎重になっていることから、主に生産設備向けに使用される機器の需要が減少している。
(金属製品)

■ 雇 用 情 勢 「持ち直しつつある」

新規求人数は前年並みとなっており、有効求人倍率も概ね横ばいで推移しているほか、法人企業景気予測調査（7-9 月期）では、製造業・非製造業ともに「不足気味」超となっていることなどから、雇用情勢は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 技術職においては他社との取り合いとなっていることから、賃上げや福利厚生の充実などで差別化を図っている。（生産用機械）
- 理系人材が不足していることから、東南アジアで採用活動を行っている。（繊維）
- 民間求人サイトを通じた募集を行うものの、ミスマッチも多いことから、積み込み予約をシステム化するなど省人化・効率化を進めることで対応している。（陸運）
- 人件費が高騰していることから AI 発注等を活用することで省人化に努めている。（百貨店・スーパー）
- 人手不足時にはグループ内で相互応援を行うとともに、必要に応じてスキマバイトサービスも取り入れて不足の解消に努めている。（宿泊）

■ 設 備 投 資 「7 年度は前年度を上回る見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査（全産業）」7 年 7-9 月期

7 年度の設備投資は、全産業で 11.9%増（対前年度増減率、以下同じ。）の見込みとなっており、産業別では、製造業で▲2.5%減、非製造業で 27.6%増の見込みとなっている。

■ 企 業 収 益 「7 年度は減益見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査（全産業）」7 年 7-9 月期

7 年度の経常利益は、全産業で▲19.4%（対前年度増減率、以下同じ。）の減益見込みとなっており、産業別では、製造業で▲24.9%の減益見込み、非製造業で 9.6%の増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住 宅 建 設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数でみると、貸家などが減少していることから、全体で前年を下回っている。

■ 公 共 事 業 「前年を下回っている」

前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等で減少していることから、全体で前年を下回っている。

■ 企 業 倒 産 「件数、負債金額ともに前年を下回っている」

倒産件数、負債金額ともに前年を下回っている。

■ 企業の景況感 「「下降」超となっている」 「法人企業景気予測調査（全産業）」7 年 7-9 月期

企業の景況判断 BSI でみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについても「下降」超の見通しとなっている。

お問合せ先：大津財務事務所 財務課 Tel077-522-6455

財 務 省